

事業所防災リーダーに向けて、防災知識や防災に関するお知らせなどを定期的に発信します。今回は、実際の事業所でどのような防災に取り組んでいるのかをご紹介します。皆さんも参考にしてみましょう。

【事例紹介】株式会社ビービーラボラトリーズ

同社では、阪神・淡路大震災と東日本大震災、両方を経験した担当者が防災対策を主導。「常に備える」を合言葉に、従業員とその家族の命を守るための体制づくりに注力しています。



東日本大震災の実体験

東日本大震災時、余震が収まらず、深夜まで交通機関がマヒ。十分に対策ができておらず、出社している従業員の行動は2極に分かれました。



徒歩帰宅組

家族の安否が気になり
雪の中を歩いて帰宅

社内待機組

会社で一夜を明かし翌朝帰宅
備蓄不足と通信障害による
プチパニック状態を経験



経験を活かした帰宅困難者対策

上記の経験を活かし、安否確認、備蓄を整えました。

安否確認

トヨクモの「安否確認2」を導入。



- ✓ 平時から運用し、緊急時の混乱を防止
- ✓ コロナ禍では毎日の検温連絡手段として活用

備蓄の用意

- 全社員の自席に「防災ポーチ」を常備
- 管理部内に3日間滞在可能な備蓄品を確保
- 備蓄品の保管場所を全社員に周知



◀3日間分の備蓄
災害用トイレは、5回/1人×3
日分×40人=600回分を
用意。保存食の他、カセット
コンロや土鍋、やかんも用意
している。

拡声器、ヘッドライト、
充電器、手回しラジオはすぐ
に出せるように壁掛けに
なっています。▶



◀防災ポーチ
折畳式のセーフティハット、ラ
イト、簡易トイレ、撥水メモ・
ボールペンなど。



支店と連携したBCP対策

大阪支店が豊中市にあり、受注基幹システムが連動しています。東京が被災しても大阪の社員と連携を図り、必要な商品の手配が出来るように準備しています。

担当者の声

神戸在住時に阪神・淡路大震災を経験し、東日本大震災では徒歩帰宅を試みるも、途中で挫折。友人宅にて家人の迎えを待つ羽目に陥りました。その経験を活かし、現在は防災担当として、従業員とその家族の命を守るために「震災」について発信しています。

▼防災情報を発信



▲防災リーダー通信も活用

事業所概要

株式会社ビービーラボラトリーズ

- 連結従業員数: 34人(2025年3月現在)
- 業務内容: 化粧品・健康食品メーカー

東京都からのお知らせ

東京都では事業所防災リーダー事業を実施しております。どなたでも無料でご登録いただけます。よくある質問をまとめておりますので、下記のリンクまたはQRコードからぜひご覧ください。

https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/res/projects/default_project/page/001/022/973/yokuaruotoiawase.pdf

